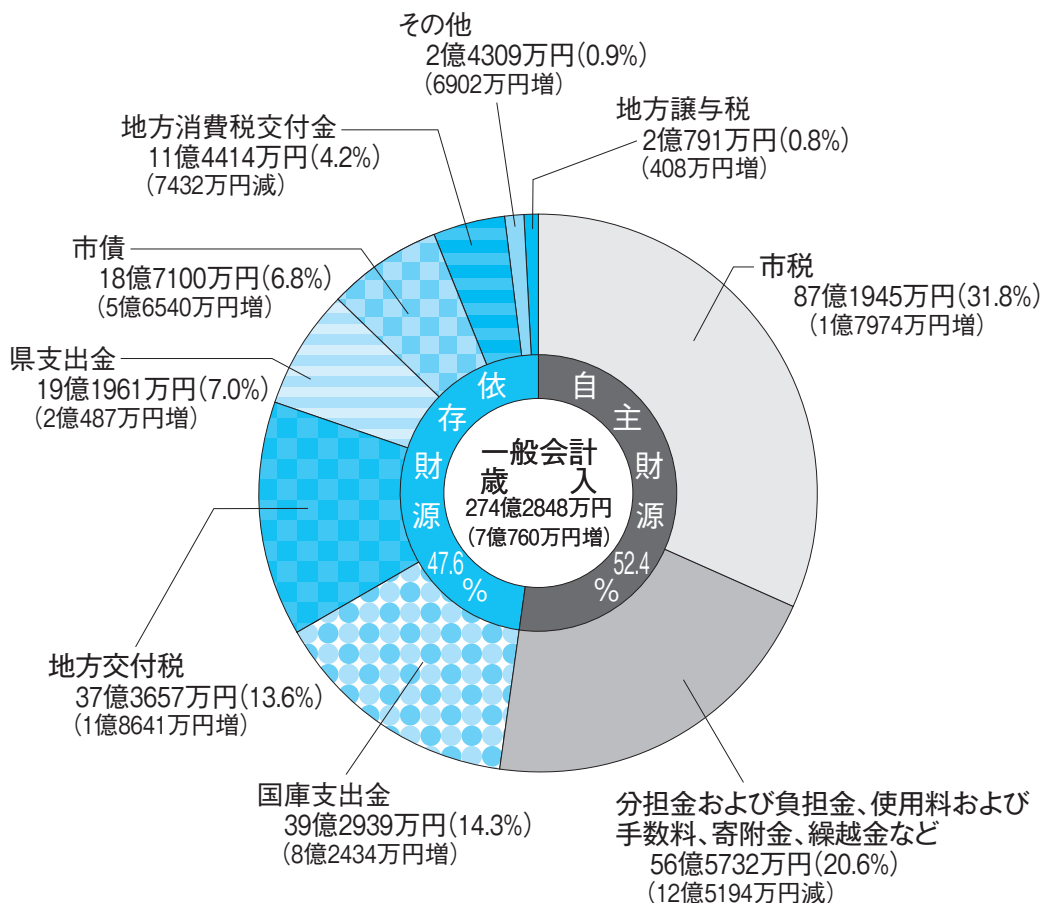
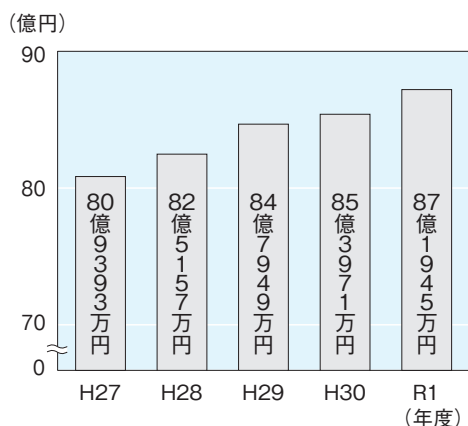


決算報告

A 一般会計歳入



C 市税の推移



B 市税の内訳

| 区分 | 決算額 | 構成比 |
|-------|--------------|--------|
| 市民税 | 個人 27億8957万円 | 32.0% |
| | 法人 8億1283万円 | 9.3% |
| 固定資産税 | 38億7613万円 | 44.5% |
| 軽自動車税 | 2億1221万円 | 2.4% |
| 市たばこ税 | 4億4047万円 | 5.1% |
| 入湯税 | 4687万円 | 0.5% |
| 都市計画税 | 5億4137万円 | 6.2% |
| 合計 | 87億1945万円 | 100.0% |

第七次天童市総合計画に基づく事業の推進

令和元年度は、年が明けて以降は、新型コロナウイルス感染症のため、施設の休館や一部の事業の中止などの影響がありました。第七次天童市総合計画の実現に向けて、活力あるまちづくりを進めるための各種施策を着実に実施しました。

それでは、市の財政の基本となる会計である一般会計、特定の事業について区分して経理している特別会計、独立採算を原則とする企業会計について、令和元年度の決算の状況をご紹介します。

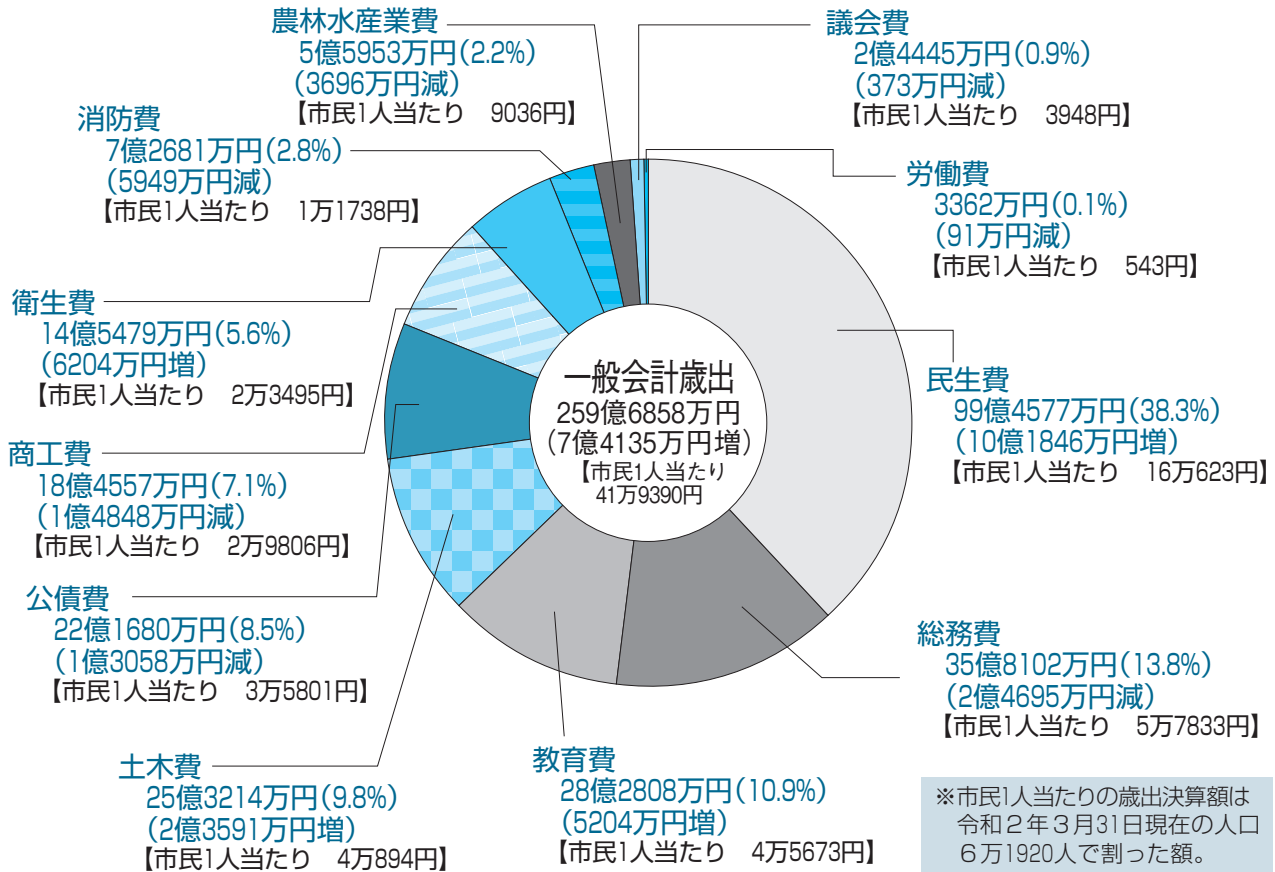
一般会計

歳入

市の財政は、自主財源の市民税や固定資産税などの市税のほか、国からの地方交付税や市債などの

9月の市議会定例会で、令和元年度の決算が認定されました。昨年度、みなさんから納めていただいた税金や国・県からの交付金・補助金などの用途についてお知らせします。

D 一般会計歳出と市民1人当たりの歳出決算額



| 科目 | 主な事業 | 金額 | 科目 | 主な事業 | 金額 |
|------------|-------------------------------------|-----------|--------------|--------------|-----------|
| 民生費 | 児童手当支給事業 | 9億6784万円 | 土木費 | 地方道路新設改良事業 | 5億8123万円 |
| | 児童扶養手当支給事業 | 3億1383万円 | | 道路管理事業 | 5億2192万円 |
| | 子育て支援医療給付事業 (18歳までの医療費完全無料化) | 3億5412万円 | | 天童古城地区整備事業 | 1億5080万円 |
| | 私立保育所事業 | 11億2196万円 | | 公園管理事業 | 2億5249万円 |
| | 認定こども園事業 | 6億845万円 | 商工費 | 商工業金融対策事業 | 13億9340万円 |
| | 届出保育施設等支援事業 | 1億1830万円 | | 天童高原施設管理運営事業 | 5987万円 |
| | 放課後児童クラブ事業 | 2億9482万円 | | プレミアム付商品券事業 | 3853万円 |
| | 介護福祉施設整備支援事業 | 7861万円 | 衛生費 | ごみ・し尿収集処理事業 | 3億2795万円 |
| | ふれあい荘・かまた荘管理運営事業 (高齢者健康福祉施設整備事業) | 6億5021万円 | | 定期予防接種事業 | 1億2609万円 |
| | 障がい者自立支援給付事業 | 7億2156万円 | | 健康増進対策事業 | 9629万円 |
| 障がい児通所支援事業 | 3億2142万円 | 農林水産業費 | 農用地整備事業 | 1億3089万円 | |
| 生活保護事業 | 5億7645万円 | | 農業担い手確保・支援事業 | 3833万円 | |
| | | | 果樹振興事業 | 2696万円 | |
| 総務費 | ふるさと納税推進事業 | 7億3628万円 | 消防費 | 消防団活動事業 | 8899万円 |
| | シティプロモーション推進事業 | 7022万円 | | 常備消防活動事業 | 7618万円 |
| 教育費 | 公民館管理運営事業 | 5億509万円 | | 消防施設整備事業 | 5572万円 |
| | 小学校管理事業 | 3億3923万円 | | | |
| | 学校給食センター管理運営事業 | 1億8893万円 | | | |
| | スポーツセンター管理運営事業 | 1億6954万円 | | | |

依存財源を基に運営しています。市税は87億1945万円、前年度に比べて1億7974万円の増となりました。これは、景気の回復基調による個人市民税、法人市民税の増が主な要因です。依存財源のうち最も多い国庫支出金は、前年度に比べて8億2434万円増の39億2939万円となりました。

市の借金である市債は、大規模な施設の整備に取り組んだため、前年度に比べて5億6540万円増加し、18億7100万円となりました。

ふるさと応援寄附金を含む寄附金は、前年度からやや減少し、1億854万円減の18億2330万円となりました。

歳入全体としては、前年に比べて7億760万円増の274億2848万円となりました。

歳出

厳しい財政状況の中、事業の必要性や緊急性などを勘案しながら重要な事業に予算を重点的に配分しています。一般会計の歳出(D)で最も多いものは民生費で、前年度に比べて10億1846万円増加し、99億4577万円となりました。令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化に対応した保育事業を実施するとともに、高まる保育

E 各会計決算総括表

(単位：万円)

| 区分 会計 | 令和元年度 | | | 平成30年度 | | | 前年度対比(%) | |
|----------|----------|----------|------------|----------|----------|------------|----------------|----------------|
| | 歳入 Ⅰ | 歳出 Ⅱ | 差引き Ⅰ－Ⅱ | 歳入 Ⅲ | 歳出 Ⅳ | 差引き Ⅲ－Ⅳ | 歳入 Ⅰ－Ⅲ Ⅲ | 歳出 Ⅱ－Ⅳ Ⅳ |
| 一般会計 | 274億2848 | 259億6858 | 14億5990 | 267億2088 | 252億2723 | 14億9365 | 2.6 | 2.9 |
| 特別会計 | 131億8119 | 127億220 | 4億7899 | 148億181 | 144億2142 | 3億8039 | ▲ 10.9 | ▲ 11.9 |
| 国民健康保険 | 63億6847 | 62億454 | 1億6393 | 67億3329 | 65億9642 | 1億3687 | ▲ 5.4 | ▲ 5.9 |
| 用地買収 | 228 | 30 | 198 | 250 | 100 | 150 | ▲ 8.8 | ▲ 70.0 |
| 財産区 | 153 | 87 | 66 | 183 | 95 | 88 | ▲ 16.4 | ▲ 8.4 |
| 介護保険 | 57億5480 | 54億7025 | 2億8455 | 55億5842 | 53億4656 | 2億1186 | 3.5 | 2.3 |
| 市民墓地 | 823 | 157 | 666 | 761 | 211 | 550 | 8.1 | ▲ 25.6 |
| 後期高齢者医療 | 7億1469 | 6億9446 | 2023 | 6億9744 | 6億7905 | 1839 | 2.5 | 2.3 |
| 工業団地整備事業 | 3億3119 | 3億3021 | 98 | 18億72 | 17億9533 | 539 | ▲ 81.6 | ▲ 81.6 |
| 合計 | 406億967 | 386億7078 | 19億3889 | 415億2269 | 396億4865 | 18億7404 | ▲ 2.2 | ▲ 2.5 |

G 財政指数

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-------|--------|
| 財政力指数 | 0.699 | 0.695 |
| 経常収支比率 | 89.2% | 90.7% |

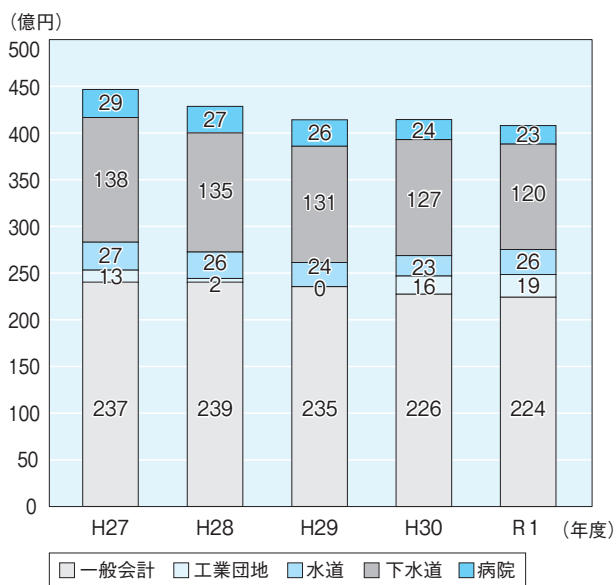
H 健全化判断比率

| | 比率 | 早期に健全化の対策が必要な基準 |
|----------|------|-----------------|
| 実質赤字比率 | — | 12.90% |
| 連結実質赤字比率 | — | 17.90% |
| 実質公債費比率 | 4.8% | 25.0% |
| 将来負担比率 | — | 350.0% |

I 資金不足比率

| 特別会計の名称 | 比率 | 経営健全化基準 |
|--------------|----|---------|
| 工業団地整備事業特別会計 | — | 20.0% |

F 各会計の市債残高の推移



需要に対応するため、保育所や認定こども園などの整備への支援を行いました。また、老朽化したかまた荘・ふれあい荘に代わり、高齢者をはじめとした市民の憩いの場となる市高齢者健康福祉施設「天童温泉はな駒荘」を新たに整備しました。

総務費は、前年度に比べて2億4695万円減少し、35億8102万円となりました。ふるさと応援寄附金の減少を受け、返礼やプロモーションに係る経費などが減少しました。

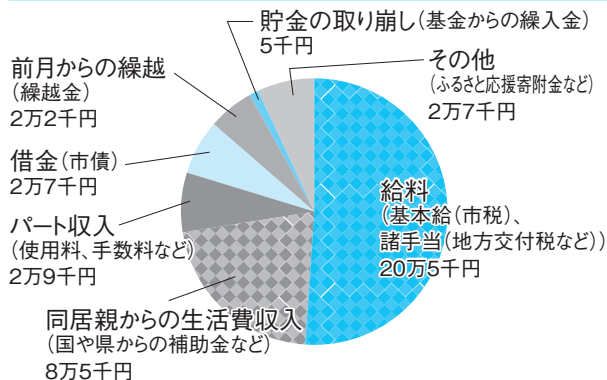
教育費は、前年度に比べて5204万円増加し、28億2808万円となりました。天童中部小にエレベーターを設置し、高揃小のグラウンド整備や干布小のプール改修を行い、教育環境の充実を図りました。また、地域活動の核となる市立津山公民館の改築を行いました。

土木費は、前年度に比べて2億3591万円増加し、25億3214万円となりました。市道の新設改良や維持管理などのほか、住宅の耐震化やリフォームへの支援、公園のトイレ改修や遊具の整備・修繕などを行いました。また、天童の新たなシンボルとして、令和2年度までの2カ年計画で天童公園もみじ園の整備を行っています。

天童市の決算を家計の収入・支出に例えると…

市の財政を身近に感じてもらうため、市の令和元年度決算を一般家庭の1カ月の家計簿に置き換えてみました。家計と市の会計は、お金の使い方や目的も異なるので単純な比較はできませんが、一般会計の決算額を月収約40万円(年収480万円)として計算し、表しています。実際の家計と比べてみてはいかがでしょうか。収入では、市税、国や県からの補助金が多く、支出では、医療費、道路や建物の建設費と維持費が多くなっているのが分かります。

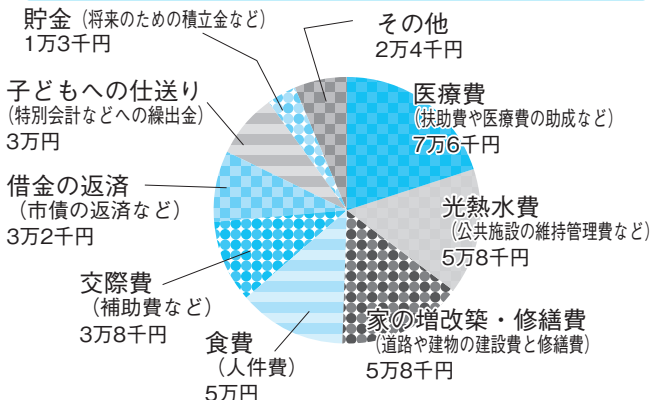
1カ月の収入



| 項目 | 金額 |
|--------------------------|--------|
| 給料(基本給(市税)、諸手当(地方交付税など)) | 20万5千円 |
| 同居親からの生活費収入(国や県からの補助金など) | 8万5千円 |
| パート収入(使用料、手数料など) | 2万9千円 |
| 借金(市債) | 2万7千円 |
| 前月からの繰越(繰越金) | 2万2千円 |
| 貯金の取り崩し(基金からの繰入金) | 5千円 |
| その他(ふるさと応援寄附金など) | 2万7千円 |
| 合計 | 40万円 |

貯金 約115万円

1カ月の支出



| 項目 | 金額 |
|--------------------------|--------|
| 医療費(扶助費や医療費の助成など) | 7万6千円 |
| 光熱水費(公共施設の維持管理費など) | 5万8千円 |
| 家の増改築・修繕費(道路や建物の建設費と修繕費) | 5万8千円 |
| 食費(人件費) | 5万円 |
| 交際費(補助費など) | 3万8千円 |
| 借金の返済(市債の返済など) | 3万2千円 |
| 子どもへの仕送り(特別会計などへの繰出金) | 3万円 |
| 貯金(将来のための積立金など) | 1万3千円 |
| その他 | 2万4千円 |
| 合計 | 37万9千円 |

借金 約390万円

特別会計

歳出全体としては、前年に比べて7億4135万円増加し、25億6858万円となりました。

特定の事業を実施するための七つの特別会計は、全て黒字となっています(E)。主なものについて紹介します。

国民健康保険特別会計は、歳入のうち保険税が13億67万円の前年度に比べて2・3割減少しました。歳出では、保険給付費が43億977万円、0・6割増加しました。

介護保険特別会計は、歳入のうち保険料が12億6983万円の前年度に比べて0・2割増加しました。歳出では、保険給付費が48億2251万円、前年度に比べて2・0割増加しました。

後期高齢者医療特別会計は、歳入のうち保険料が5億2655万円、前年度に比べて5・6割増加しました。歳出では、後期高齢者医療広域連合への納付金が6億5040万円、前年度に比べて2・4割増加しました。

工業団地整備事業特別会計では、市内の産業のさらなる発展と雇用の場の確保を図るため、山口西工業団地の北側区画の造成工事を行いました。

全会計の市債残高はやや減少

一般会計や公共下水道事業、病院事業の企業会計の市債については前年度より減少しましたが、水道事業、工業団地整備事業特別会計が増加し、全体としての市債残高は若干の減少となっています(F)。市債残高の合計は、前年度に比べて3億9312万円減少し、412億5707万円となりました。

健全財政を堅持し 財政指標は改善

財政の力強さを示す財政力指数は、市税の増加や地方特例交付金の増加などによって向上しました。また、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、市税の増加、公債費の減少などにより数値が減少し、改善されました(G)。市債に関する指標である実質公債費比率は数値が減少し、同時に将来負担比率は大幅に改善したため、健全財政を堅持することができました(H)。また、実質赤字比率、連結実質赤字比率は算定されず、企業会計などの資金不足の程度を示す資金不足比率(I・L)についても算定されませんでした。これは、一般会計、特別会計、企業会計が黒字であることを意味しています。

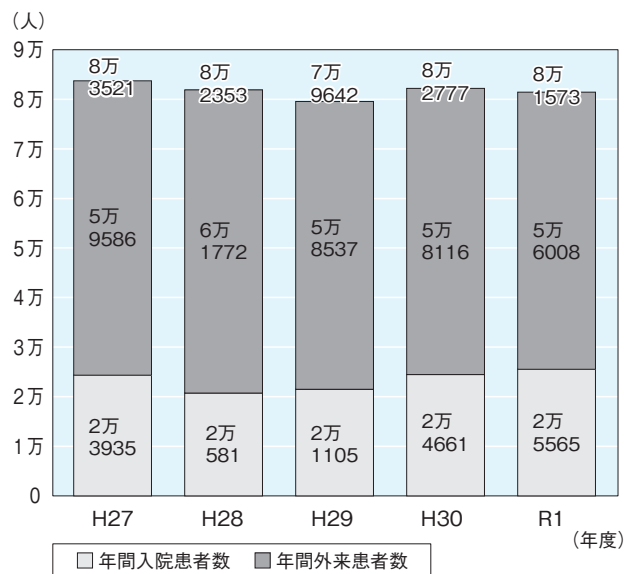
K 病院事業資本的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|---------|----------|----------|
| 資本的収入 | 1億9151万円 | 1億8083万円 |
| 一般会計負担金 | 1億7684万円 | 1億7083万円 |
| 企業債 | 1100万円 | 1000万円 |
| 補助金 | 367万円 | 0円 |
| 資本的支出 | 1億9151万円 | 1億8083万円 |
| 建設改良費 | 2187万円 | 2025万円 |
| 企業債償還金 | 1億6964万円 | 1億6058万円 |
| 差引き | 0円 | 0円 |

J 病院事業収益的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-----------|-----------|
| 病院事業収益 | 18億9443万円 | 17億4733万円 |
| 医業収益 | 14億7508万円 | 13億4935万円 |
| 医業外収益 | 4億1935万円 | 3億9798万円 |
| 病院事業費用 | 17億6972万円 | 17億2649万円 |
| 医業費用 | 17億964万円 | 16億6642万円 |
| 医業外費用 | 6008万円 | 6007万円 |
| 差引き | 1億2471万円 | 2084万円 |

M 入院・外来患者数の推移



L 資金不足比率

| 企業会計の名称 | 比率 | 経営健全化基準 |
|------------|----|---------|
| 天童市民病院事業会計 | — | 20.0% |
| 水道事業会計 | — | 20.0% |
| 公共下水道事業会計 | — | 20.0% |

企業会計

■天童市民病院事業会計
令和元年度は、前年度と比べ、入院患者数が904人増加しましたが、外来患者数が2108人減少したことから、全体の患者数は1204人減少しました（M）。

収益的収支（J）では、入院収益などの医業収益が増加しましたが、これは、入院患者数の増加などによるものです。また、事業収益も前年度に比べ、1億4710万円増加しました。一方、事業費用についても、報償費などが増加

■水道事業会計
令和元年度の水道事業は、安全で良質な水を安定供給するために取り組んできました。給水量については、節水機器の普及などにより前年度と比べて減少しています。また、配水設備に付属する電機計装設備更新工事を実施するとともに、管路の耐震化整備工事に引き続き取り組んでいます。

収益的収支（N）では、給水量の減少などにより営業収益が減少しています。また、費用については、退職給付費などが増加したことにより、支出が増加しています。資本的収支（O）では、老朽化

したことにより、前年度に比べ、4323万円増加しています。資本的収支（K）では、収入および支出の合計が1億9151万円、前年度に比べ1068万円増加しました。なお、その内訳については、収入は一般会計負担金が増加したことが主な要因です。

その結果、令和元年度の病院経営は、經常収支比率が106・0割、収益的収支の純利益が1億649万円となり、5年続けて黒字経営となっております。

今後も、安全・安心な医療の提供と医療体制の充実に努めるとともに、経営の健全化を推進します。

■公共下水道事業会計
令和元年度の公共下水道事業は、快適な生活を支えるために取り組んできました。有収水量や処理水量は水需要の減少や節水機器の普及などのため前年度より減少しました。また、年間処理水量に占める有収水量を表す有収率は、雨水が下水管に浸入することを防ぐ不排水対策などにより増加しました。

収益的収支（Q）では、下水道使用料などの事業収益は、負担金などの営業外収益の減により減少しました。

資本的収支（R）では、管渠築造工事や管渠更生工事などに継続して取り組まれましたが、工事が減ったため、支出額が前年度に比べて減少しました。なお、7億1810万円の不足が生じています

した配水管の耐震化工事や前年度から八幡山配水場管理用通路法面復旧工事を繰り返したことなどにより建設改良費が増加しました。なお、4億4583万円の収支不足が生じていますが、収益的収支の減価償却費などの留保資金で補ってんでいます。

経営指標（P）を比較すると、前年度と同様に健全な経営状態を維持しています。今後も、安全・安心で効率的な水道事業の運営を行ってまいります。

O 水道事業資本的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|---------|-----------|-----------|
| 資本的収入 | 5億2346万円 | 4675万円 |
| 加入金 | 2129万円 | 2077万円 |
| 企業債 | 4億8640万円 | 0円 |
| 負担金 | 1577万円 | 2598万円 |
| 資本的支出 | 9億6929万円 | 8億3655万円 |
| 建設改良費 | 8億2544万円 | 6億9596万円 |
| 固定資産取得費 | 75万円 | 84万円 |
| 企業債償還金 | 1億4310万円 | 1億3975万円 |
| 差引き | ▲4億4583万円 | ▲7億8980万円 |

N 水道事業収益的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-----------|-----------|
| 水道事業収益 | 16億4301万円 | 16億2524万円 |
| 営業収益 | 14億5649万円 | 14億6067万円 |
| 営業外収益 | 1億8652万円 | 1億6457万円 |
| 水道事業費用 | 13億560万円 | 12億8779万円 |
| 営業費用 | 12億5925万円 | 12億1945万円 |
| 営業外費用 | 4634万円 | 6150万円 |
| 特別損失 | 1万円 | 684万円 |
| 差引き | 3億3741万円 | 3億3745万円 |

P 水道事業の経営指標

| 指標 | 施設利用率 | 有収率 | 給水原価 | 供給単価 | 自己資本構成比率 | 総収支比率 |
|--------|------------------------|---------------------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|---------------------------|
| 令和元年度 | 72.5% | 91.7% | 183.6円/㎥ | 218.3円/㎥ | 80.4% | 121.6% |
| 平成30年度 | 73.2% | 92.2% | 176.8円/㎥ | 217.1円/㎥ | 81.3% | 123.5% |
| 指標の説明 | 施設の利用状況の良否。100%に近いほど良い | 給水量に対して収益が得られた水量の割合。100%に近いほど良い | 収益が得られた水量1㎥当たり に要した費用 | 収益が得られた水量1㎥当たり の金額 | 自己資本の占める割合。50%以上が望ましい | 収益と費用の相対的比率。100%以上で純利益が発生 |

R 公共下水道事業資本的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|---------|-----------|-----------|
| 資本的収入 | 6億5787万円 | 10億5042万円 |
| 企業債 | 2億9950万円 | 5億4420万円 |
| 他会計出資金 | 2億2698万円 | 2億4398万円 |
| 国庫補助金 | 8635万円 | 2億546万円 |
| 負担金 | 4504万円 | 5678万円 |
| 資本的支出 | 13億7597万円 | 17億522万円 |
| 建設改良費 | 4億1714万円 | 7億3793万円 |
| 固定資産取得費 | 0円 | 0円 |
| 企業債償還金 | 9億5883万円 | 9億6729万円 |
| 差引き | ▲7億1810万円 | ▲6億5480万円 |

Q 公共下水道事業収益的収入および支出（税込み）

| | 令和元年度 | 平成30年度 |
|---------|-----------|-----------|
| 下水道事業収益 | 15億8238万円 | 16億3456万円 |
| 営業収益 | 11億3925万円 | 11億3176万円 |
| 営業外収益 | 4億4313万円 | 5億280万円 |
| 下水道事業費用 | 15億1593万円 | 15億2692万円 |
| 営業費用 | 12億6334万円 | 12億6725万円 |
| 営業外費用 | 2億5258万円 | 2億5953万円 |
| 特別損失 | 1万円 | 14万円 |
| 差引き | 6645万円 | 1億764万円 |

S 下水道事業の経営指標

| 指標 | 普及率 | 水洗化率 | 有収率 | 汚水処理原価 | 使用量単価 | 自己資本構成比率 | 総収支比率 |
|--------|-------------------------|-------------------------|------------------------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|---------------------------|
| 令和元年度 | 98.9% | 93.0% | 75.8% | 170.3円/㎥ | 158.2円/㎥ | 56.0% | 102.9% |
| 平成30年度 | 98.8% | 92.6% | 74.2% | 157.8円/㎥ | 157.8円/㎥ | 54.2% | 105.0% |
| 指標の説明 | 下水道の整備状況の良否。100%に近いほど良い | 下水道の利用状況の良否。100%に近いほど良い | 汚水処理水量に対して収益が得られた水量の割合。100%に近いほど良い | 収益が得られた水量1㎥当たり に要した費用 | 収益が得られた水量1㎥当たり の使用料 | 自己資本の占める割合。50%以上が望ましい | 収益と費用の相対的比率。100%以上で純利益が発生 |

未来を見据えた財政運営

が、収益的収支の減価償却費などの留保資金で補ってんしています。経営指標（S）では、県内で最も高い下水道普及率を維持しています。今後も、効率的な事業運営に努めていきます。

このように、令和元年度は、一般会計や特別会計では、黒字の決算になるとともに、企業会計についても資金不足が生じないなど、健全財政の堅持に努めました。市税の収入が87億円を超えるなど、年々歳入の面で改善が見られますが、一方で、社会保障関係経費や施設の維持管理費などの経常的な経費の増加や、新型コロナウイルス感染症の対策に要する支出などにより、市の財政状況はさらに厳しくなる恐れがあります。

今後とも、財政の健全化に留意し、効率化に努めるとともに、必要な施策への重点化などを行いながら、持続可能な財政運営の堅持に取り組んでいきます。

問合せ 市財政課

（☎654局11111内線342）

天童市民病院

（☎654局2511）

市上下水道課

（☎654局11111内線442）